

みなさん、おはようございます。いよいよ今日から新しい学年が始まりました。

高三の諸君は本校最後の学年です。高二、中三、中二の諸君は、まだ、後がありますが、みんな頑張って今年一年を過ごしましょう。ところで、この学年は今までとは全く違うところがあります。

それは、新しい校舎、実は、まだ半分だけですが、そこに一旦移転することが予定されているからです。いや、予定されていたからと言った方がいいのかも知れません。と言うのは、3月11日の東北地方太平洋沖大地震によって引き起こされた東日本大震災の影響が附設の建築工事にも及んできています。今の時点では、まだ、詳しくはわからないのですが、工事が遅れるということだけがわかっています。しかし、遅れの理由として伝わってきたことを考えると、日本という国がいつの間にか思っていた以上に脆弱になってしまっていたことを痛感します。こういうことをわたくしたちは事実としてしっかりと受け入れることから始めなければならないことになりました。

しばらく大地震の前の日本のことは忘れなければならない、これから、みなさんが向き合わなければならないのは、東日本大震災以後の日本であり、世界であるということです。そして、五年後十年後を考えて、それがどんなものになるだろうかとなると、まだ、見当も付きません。とにかく、一ヶ月前までの日本や世界を当然のこととして考えてきたことは、全部、最初から検討しなおさなければならないでしょう。それはみなさんの将来についても同じです。一ヶ月前にみなさんが思い描いていた自分の未来の姿は、そのままでは、恐らく、もう、意味がなくなっています。みなさんは、別にあわてる必要はありませんが、新しい意味を付けなければなりません。

なるほど、日本は今までさまざまな苦難を乗り越えてきたではないか、今度も立ち直るよ、立ち直るに違いない、とは、大地震の発生の直後から、まあ、世界中から言われてきました。しかし、今は、この言葉も忘れることです。わたくしたちは東日本大震災以後の新しい厳しい事態にしっかりと向き合わなければなりません。その上、この大震災は日本だけでなく世界全体を変えてしまったと思います。日本がかつてのような重みを取り戻せるかどうかはわかりませんが、明らかになったことは、世界に対して日本が大変な責任を負っていたのに、その自覚がないまま過ごしてきたということです。国内事情だけの配慮で経済や政治の運営をして何一つ問題はないとしてきましたが、日本の活動の規模は全世界に及んでいたということの意味がわかっていなかったと思います。その結果として、国全体がものすごく脆弱になってしまっていたということでしょうか。

ともかく、諸君の前には、もうかつての、やや元気がなかったとは言え、一応繁栄していた日本は存在しなくなったと思ひ知るべきでしょう。じゃあ、悪いことばかりか、というと、そんなことはありません。事実をしっかりと受留めることができれば、みなさんは何といても若いし、そして、附設の生徒ですから、しっかりと基本を身に付け、多少の応用力が備わっているはずですよ。ですから、何もこわいことはありません。みなさんは、いわゆる、つぶし、それも、知的にも極めて高級な形の、

そういうつぶしが効く人間，言い換えれば，柔軟で，何が起きてもの確に対応できる人間になる過程にあるはずです。それには，今まで以上に，基本をしっかりと勉強すること，この学年はその第一歩になります。くれぐれも小手先での誤魔化しには手を出さないように。そのようなことは諸君の能力を削ぐだけです。そして，みなさんは新しい日本や世界を，ある意味で，一から作り上げるという，なかなか得がたい機会にめぐり合っているということです。怪しげな英語を唱えれば：

Before you is now widely open a big chance that you yourselves shape the new world from scratch !

さて，日本経済新聞朝刊(平成 23 年 3 月 31 日)に建築家の安藤忠雄さんの「私の履歴書」の最終回の記事が載っています。文脈はもっと広いのですが，非常によい内容だと思いますので，ここで朗読します。

(朗読開始)

安藤忠雄(31) 日本 人間性育む教育に未来 実直な国民性・創造力、回復を
(本文省略)

(朗読終了)

幸い，安藤さんは楽観的だろうと思います。みなさんも，安藤さんのメッセージをしっかりと受留めて，立派に応えてみせてください。

平成 23 年 4 月 4 日

久留米大学附設中学・高等学校 校長

吉川 敦